

## 2. ポアソン分布表

ポアソン分布表も、二項分布表と全く同じように、 $P_r$ と $P_{r-1}$ に関する漸化式を用いて作成します。

$$P_r = \frac{e^{-\lambda} \lambda^r}{r!}, \quad P_{r-1} = \frac{e^{-\lambda} \lambda^{r-1}}{(r-1)!} \quad (\lambda = np)$$

$$\therefore \frac{P_r}{P_{r-1}} = \frac{e^{-\lambda} \lambda^r}{r!} \times \frac{(r-1)!}{e^{-\lambda} \lambda^{r-1}}$$

$$= \frac{\lambda}{r}$$

$$\therefore \frac{P_r}{P_{r-1}} = \frac{\lambda}{r} \quad \therefore P_r = \frac{\lambda}{r} P_{r-1} \quad (r = 1, 2, 3, \dots, n)$$

## 3. 正規分布表

[準備1] 関数 $f(x)$ が、次のように条件 $A$ をみたす交項級数に展開されているものとする。

$$f(x) = u_1 - u_2 + u_3 - \dots + (-1)^{n-1} u_n + (-1)^n u_{n+1} + \dots$$

(ただし、条件 $A: u_n > u_{n+1}, n = 1, 2, 3, \dots$ をみたす)

いま、 $f(x) \doteq u_1 - u_2 + u_3 - \dots + (-1)^{n-1} u_n$  とすると、項打ち切りによる誤差 $E$ は、

$$E = (-1)^n (u_{n+1} - u_{n+2} + u_{n+3} - \dots)$$

$$= (-1)^n \{u_{n+1} - (u_{n+2} - u_{n+3}) - ( ) \dots\}$$

ここで、条件 $A$ より、 $\{ \}$ の $( )$ の中の値はすべて正、よって、

$$\{u_{n+1} - (u_{n+2} - u_{n+3}) - ( ) \dots\} < u_{n+1}$$

$$\therefore |E| < u_{n+1}$$

これは、項打ち切りによる誤差の大きさは、その次の項の大きさより小であることを示す。したがって、あらかじめ、小数点以下何桁まで正しい値が必要であるかを決めておけば、この関係からこの級数の第何項まで計算すればよいか分かる。